

お母さんと骨折とカルシウム

埼玉県川口市立安行東小学校二年

鈴木^{すずき}

紫文^{しもん}

小学校のうんていから落っこちた

今まで生きてきて、一番いたかった

先生によばれたお母さんがとんできた

そのままぼくは病院につれていかれた

レントゲンを見たお医しゃさんよりも先に

「骨折ですね。」って、お母さんが言った

ぼくの右手はきれいにぼつきり折れていた

そのあととはじごく

折れた骨を元の場所にもどすために

お医しゃさんがぼくの右手を引っぱった

うでがちぎれるかと思った

「骨が折れちゃうよ！」って、さげんたら

「もう折れてるから！」って、あばれるぼ

くをおさえつけながらお母さんが言った

オニかと思った

でも、ちりようがおわったら

「ちゃんとなおるから大丈夫だよ。」って、

お母さんはせなかをやさしくなでてくれた

ぼくはやつとほつとした

お母さんもやつとえがおになった

お母さんもドキドキしてこわかったんだね

その日からぼくはカルシウムづけ

お母さんは牛にゆうや小魚、骨にいいもの

をたくさん買ってきた

おかげでぼくの骨は少し早くくつついた

まだゆだんできないけど

ぼくはもうすぐなおるとしんじてる

お母さん、ありがとう

骨折がなおったら

いっぱいお手つだいしてあげるからね